World Vision

この子を救う。未来を救う。

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

東日本大震災緊急支援募金による活動報告

募金件数：24,545件
募金額：658,150,957円
活動期間：2011年3月11日～2012年6月30日（予定）

2011年早春、東日本を襲った未曽有の大災害。ワールド・ビジョン・ジャパンは、東日本大震災発生直後から緊急支援を開始し、皆さまに募金をお願いしました。本当に多くの皆さまからご協力をいただき、困難な状況にある被災地の子どもたちや人々のために、多くの支援活動を行っています。感謝とともに、ここにご報告させていただきます。

被災地の状況

3月11日（金）14時46分、宮城県三陸沖で、観測史上最大となるマグニチュード9.0の大地震が発生しました。そしてこの地震によって発生した最大10mともなる巨大な津波とともに、東北地方の太平洋沿岸部を中心に、壊滅的な被害をもたらしました。

災害の発生からちょうど2カ月となる5月11日の時点で、1万4千人以上の方々が命を落とし、9千人以上の方々が行方不明となっています。

支援活動の内容

ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）では、交通網も寸断された状況の中、災害発生から72時間以内に、調査・支援活動のためにスタッフ3名を被災地に派遣しました。メンバーは、スマトラ沖地震やハイチ大地震時に、3日以内に現地入りして支援事業を立ち上げている緊急人道支援課課長の坂賢二郎スタッフ、新潟県中越沖地震の際に現地入りしている国内事業部部長の高木克己スタッフ、ハイチ大地震時に現地入りしている蘇畑光子スタッフです。そして、調査結果に基づき、被災した子どもたちや人々の必要に応える支援活動を迅速に展開してきました。

被災地入りした高木スタッフ、坂スタッフ、蘇畑スタッフ（左から）

多くの被害をもたらした東日本大震災

被災された人々の命と暮らしを支える支援
—緊急支援物資の配布

WVJは、地震と津波の発生から1週間以内に、宮城県南三陸町で被災し、隣接する登米市内の避難所に避難している方々に、緊急支援物資の第一便として、布団、ミネラルウォーター、紙おむつなどの衛生用品を配布しました。

今回の地震と津波で被災した方々の多くは、家や家財道具などすべてを失いました。WVJでは、第一便の支援を皮切りに、宮城県南三陸町、気仙沼市、登米市および岩手県山田町、遠野市、大槌町、一関市の被災された方々70,899人（4月25日時点）に、緊急支援物資を届けています。その際、多くの企業からのご協力をいただき、時間の経過とともに変化する必要に合わせ、迅速にきめ細かい物資の提供を行うことができました。

さまざまな企業のご協力をいただきました

ワールド・ビジョン・ジャパンは、多くの方々と協力し、パートナーとして連携しながら活動を進めていくことを大切にしています。今回、迅速な緊急支援物資の配布が実現した背景にも、企業の皆さまのご協力がありました。

震災発生後1週間以内に、宮城県登米市に、赤ちゃん用の紙おむつ13万枚や女性用生理用品10万個を届けましたが、それらを無償でご提供いただいたのは、1995年の阪神淡路大震災を経験したP&Gジャパンでした。そのほか、掛け布団（イケア・ジャパン）、ミネラルウォーター（阪神酒販）なども避難所に届けられました。

3月下旬、避難している方々の避難所生活が長引くにつれ、衛生状態の悪化や、感染症のリスクが高まりました。そこで、WVJは約1万セットの衛生キットを宮城県、岩手県で避難生活をしている方々へ届けました。石けん（玉の肌石鹸）、シャンプー、リンス（P&Gジャパン）、消毒用アルコール（花王）、歯ブラシ（花王/日本アムウェイ）、フェイスタオル（イケア・ジャパン）、マスク（富士フィルム）が入った衛生キットとトイレットロール（日清紡）の配布、粉ミルク（和光堂）、毛布（住友化学）や下着、靴下（チュチュアンナ）の提供、支援物資の保管や迅速な物流は、住友倉庫やヤマザキ物流、日産自動車からは四輪駆動車の寄贈など、多くの企業の皆さまのご支援とご協力により、実現しました。

掲載誌面の都合上、各企業より略称での掲載のご了承をいただきました。

緊急支援物資を受け取る
笑顔の女の子

緊急支援物資配布のようす（トラック積み出し）

子どもたちが安心して遊べる環境の整備
― チャイルド・フレンドリー・スペースの開設

今回の災害では、多くの子どもたちが被災し、そして避難所生活を強いられています。普段と異なる生活を送る子どもたちが、安心して遊んだり、話ができる場所を提供するために、WVJは、宮城県登米市と南三陸町の4カ所でチャイルド・フレンドリー・スペース（CFS）「ぜんいんしゅうごう！」を開設しました。CFSの活動は、国連機関および国際NGOが世界の紛争・災害発生地で実施しており、その効果は国際的に知られています。

WVJでは、これまで計4年半パキスタンとミャンマーの現場でCFSの活動を進めてきた山野真季葉スタッフを中心に、ボランティアとして参加してくれた地元の中、高、大学生の子どもたちとともに活動を進めてきました。WVJが開設した4カ所のCFSには、これまでのべ127名の子どもたちが参加しました。被災したことや避難所での生活などで精神的にも不安定になりがちな子どもたちですが、安心して活動できるCFSで友だちと遊んだり話したりすることで、心の安定を保つことに繋がっています。

CFS活動の開始にあたって、避難所で生活する子どもたちとミーティングを実施

思いっきりサッカーをする子どもたち（登米市のCFS）

学校再開へ向けて、子ども目線の支援
―小・中学校への仮設トイレの設置

今回の災害では、学校にも甚大な影響があり、壊滅的な被害を受けたところも数多くあります。そのため、WVJでは、南三陸町の小・中学校に、計50台の仮設トイレを届けました。その際、小さな子どもたちも安心して使えるよう、仮設トイレには親子便座を設置しました。校舎内のトイレとは異なる仮設トイレですが、小さな子どもたちも安全に使える親

子便座が設置してあるため、子どもたちや先生方にも喜んでいただけました。

小さな子どもたちのために親子便座を設置しました

設置された仮設トイレ

笑顔で新学期を迎えるために（1）
―学用品の支援

気仙沼市では、4月21日（木）に学校が再開されました。WVJは、多くの物を失った子どもたちが不自由なく勉強を再開できるよう、気仙沼市の小学校10校、中学校3校に通う子どもたち2,695人に、新学期に必要となるノートや筆記用具などの学用品セットを支援しました。また、南三陸町では5月10日（火）の学校再開に合わせて、南三陸町のすべての小・中学校に通う子どもたち1,183人に、同様の学用品セットを届けました。

学用品セットを配布する山野スタッフ

学用品セットの内容

支援対象の学校や提供品目については、宮城県庁や県内で活動する他のNGOと連携し、内容に差が出ないように調整しています。

WVJの支援を喜んで下さった気仙沼や南三陸の小学校では、新学期の始業式にWVJのスタッフを招待いただき、そこで学用品を配布させていただきました。

笑顔で新学期を迎えるために（2）
―スクールバスの支援

宮城県南三陸町の戸倉小・中学校は、東日本大震災によって校舎が全壊しました。そのため、戸倉小・中学校は、隣接する登米市内の旧善王寺小学校に仮移転することになりました。そして、多くの子どもたちが、登米市内の避難所などに転居し、そこから移転先の学校に通うことになりました。一方、南三陸町に残って生活を続けている子どもたちもいます。戸倉小・中学校の子どもたちが、学校の移転後もこれまでの友だちと一緒に勉強したり遊んだりできるよう、WVJでは、南三陸町に残っている戸倉小・中学校の生徒たちのために、南三陸町–登米市間のスクールバスを支援しています。

スクールバスで通学する子どもたち

被災された人々の再出発に向けての支援
―仮設住宅への支援物資配布

東日本大震災によって住宅を失った方々のために、岩手県・宮城県・福島県で約72,000戸の仮設住宅が必要とされており、各県で建設、被災された方々の入居が進められています。

仮設住宅に入居される方々に、安心して新しい生活を始めていただきたいという願いから、WVJでは岩手県、宮城県の仮設住宅に入居される計15,100世帯に、当面の生活に必要な生活物資を支援しています。提供品目や対象世帯については、内容に差が出ないように、各県庁、県内で活動する他のNGOと調整しています。

また、生活支援物資の搬入にあたっては、地元の社会福祉協議会を通して集まってくださったボランティアの方々や、役場の方々などにご協力いただきました。中には、ボランティア活動をするために、青森や北海道から来た方もいらっしゃいました。

仮設住宅への物資搬入にご協力くださった皆さん

今後も、これまで培ってきた国内外における緊急人道支援の経験を活かしながら、引き続き被災した子どもたちや人々の必要性に応える支援を行っていきます。

スタッフの声

今日(5月12日)は、岩手県北部にある久慈市野田村の仮設住宅に入居される128世帯の方々に、新しい生活を始めるために必要な、一世帯につき105品目の生活物資セットをお届けしました。配布に関しては、40名のボランティアの方々にもご参加いただきました。多くの方々のご協力により、被災された方々に支援ができることに本当に感謝しています。

WVJでは、このような仮設住居への生活物資支援、避難所での炊き出し支援、子どもが安全に安心して遊べるCFSの開設、学校を再開するための支援などを行っていきます。これからも、皆さまと一緒に、被災された方々に寄り添い、ともに歩む支援を続けていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 木内真理子（東日本大震災緊急・復興支援部部長）

仮設住宅への生活物資支援を担当しています。皆さまからのご支援、地域の方々のご協力をいただき、被災された方々へのご支援ができることに本当に感謝しています。

仮設住宅への支援は、避難所で集団生活をされていた被災者の方々が、自立の第一歩を踏み出すためのとても重要な支援です。WVJでは、皆さまからのご支援により、今後も、宮城県、岩手県の仮設住居で暮らす1万5000世帯の方々に支援を行っていく予定です。

皆さまからのご支援に感謝するとともに、これからも私たちの活動を温かく見守っていただきたいと思います。 望月亮一郎（東日本大震災緊急・復興支援部スタッフ）

支援を受け取った方々の声を紹介します

2011年4月8日、WVJは、気仙沼市の避難所（気仙沼市総合体育館ケー・ウェイブ）にて1,000組の靴を配布しました。収容規模200名の避難所には、700名以上の人々が避難していました。そのほとんどは、3月11日に津波に襲われる直前、靴もはかず、何も持たずに家から避難してきた方々ばかりです。

アモシバ　ユタカさん
「津波ですべて流され、何も持っていなかったので、靴が一番欲しかったものです。今週、私の家があった場所に戻って片づけをしようと思っていたのですが、泥が大量に流れているため、靴が必要でした」

オザタ　セイイチさん（76歳）
「私の靴は津波で流されてしまったので、裸足で逃げなければなりませんでした。頂いた靴は、被災して初めてはく靴になります」

コマツ　ノブコさん（76歳）
「これらの靴は本当にありがたいです。みなとても喜んでいます。避難してきたとき、私は94歳になる母を連れて逃げなければならず、裸足でした。私たちはヘリコプターに救助されました。避難所に着いたときスリッパをもらいましたが、スリッパでは避難所の外には出られませんでした。これから、避難所の外に歩いて行けるのでとても助かります」

キムラ　ツリコさん（55歳）
「私の足のサイズに合う靴を探すのが大変だったのですが、今日WVJが色々なサイズの靴を持ってきてくれたのでとても助かりました。みなとても喜んでいます」

気仙沼市の避難所で靴の配布を受け取る被災者の方

●募金についてのお問合せは

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒169-0073　東京都新宿区百人町1-17-8-3F
電話03-3367-7621 ※受付時間9:30～19:00（平日、月～金）　FAX03-3367-7652
Email: dservice@worldvision.or.jp